

感染症一覧 (こども家庭庁 2018年改訂版 2023年10月一部修正「保育所における感染症対策ガイドライン」より)

社会福祉法人 愛和会

2023年10月

● 意見書(医師が記入)が必要な感染症

感染症名	おもな症状	感染しやすい期間	登園の目安	備考	
麻疹(はしか)	発熱・鼻水 目やに・目の充血・発しん	発熱出現1~2日前から 発しん出現後の4日間	解熱後3日を経過してから		
風しん	発熱・発しん リンパ節の腫れ	発しん出現の前7日から、 後7日間くらい	発しんが消失してから	妊娠初期の感染は、 奇形児出産率が高い	
水痘(水ぼうそう)	発しん→水疱→かさぶた 発しんはかゆみが強い	発しん出現1~2日前から かさぶたができるまで	すべての発しんが、 かさぶたになってから	集団発生を起こす	
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ、ムンプス)	発熱 耳の前下部の腫れと痛み	発症3日前から 耳下腺腫脹後4日	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫脹発現後 5日経過し、良好な状態	集団発生を起こす 2歳~7歳に多い	
結核	発熱・咳・喀痰・喀血 疲労・体重減少		感染のおそれが無くなってから		
アデノ ウイルス 感染症	咽頭結膜熱 (プール熱)	38~40℃の発熱 咽頭痛・結膜の充血	発熱、充血等症状が 出現した数日間	主な症状が消え 2日経過してから	医師の許可があるまで プールには入れない
	流行性角結膜炎	目の異物感・充血 まぶたの腫れ	充血、目やに等症状が 出現した数日間	感染力が強いので、 結膜炎の症状が消失してから	
百日咳	コンコンという 短く激しい咳が続く	抗菌薬を服用しない場合、 咳出現後3週間を経過するまで	特有の咳が消失、又は5日間の抗菌性 物質製剤による治療終了	3歳以下の乳幼児は 肺炎を合併することがある	
腸管出血性大腸菌感染症 (O157、O26、O111等)	激しい腹痛 水様性の下痢、血便		菌陰性が確認されてから	医師の許可があるまで プールには入れない	
急性出血性結膜炎	目の充血・瞼の腫れ・発熱・ 頭痛		医師により感染の恐れがないと認めら れていること		
侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	発熱・頭痛・嘔吐・首後ろの 硬直		医師により感染の恐れがないと認めら れていること		

● 登園届(医師の診断を受け、保護者が記入)が必要な感染症

感染症名	おもな症状	感染しやすい期間	登園の目安	備考
インフルエンザ	突然の高熱・関節・筋肉の痛み・ 全身倦怠感・咳・鼻水・咽頭痛	症状がある期間(発症前24時間か ら発症後3日程度までが最も感染 力が強い)	発症した後5日経過し、 かつ解熱後3日経過してから	発症(発熱)した日を0日目と数 える 解熱した日を0日目と数える
新型コロナウイルス感染症	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠 感、消化器症状、鼻汁、味覚異 常、嗅覚異常	発症後5日間	発症した後5日を経過し、かつ症状が 軽快した後1日を経過すること ※無 症状の感染者の場合は、検体採取日を 0日目として、5日を経過すること	発症(発熱)した日を0日目と数 える。 詳しい登園の目安については園 までお問い合わせください。
溶連菌感染症	発熱(39℃前後) 発熱・咽頭痛・いちご舌	抗菌薬治療を開始する前と 開始後1日間	抗菌薬内服後24~48時間 経過していること	
マイコプラズマ肺炎	発熱・乾性の激しい咳 咽頭炎	抗菌薬治療を開始する前と 開始後数日間	発熱や激しい咳が、 治まっていること	乳幼児では典型的な経過を とらない
手足口病	軽い発熱 手足や口に小さな水疱ができる	手足や口の中に水疱・潰瘍ができて 数日間	発熱・口の中の水疱・潰瘍の影響がな く、普通に食事がとれること	玩具は個人別にする。
伝染性紅斑 (りんご病)	軽いかぜ症状 両頬・手足に網目状の紅斑	かぜ症状出現から顔に発しんが出 現するまで	全身状態がよいこと	幼児期に多い
ウイルス性胃腸炎 (ノロ・ロタ・アデノ・エン テロ・サポ等)	突発の嘔気・嘔吐・下痢を主症 状とする	症状のある間と、症状消失後1週間	嘔吐・下痢等の症状が治まり、 普段の食事がとれること	冬に流行する
ヘルパンギーナ	突然の高熱・咽頭痛・のどの奥 に白い小さな水疱しん	急性期の数日間	発熱・口の中の水疱・潰瘍の影響がな く、普通に食事がとれること	1~4歳児に、 6~8月にかけて多い
RSウイルス感染症 ヒトメタニューモウイルス感染症	発熱・鼻水・咳・喘鳴 呼吸困難	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良い こと	
帯状疱疹	皮膚・粘膜に水疱を形成	水疱を形成している間	すべての発しんが、かさぶたにな ってから	
突発性発しん	38℃以上の高熱 解熱後に鮮紅色の発しん	発熱中は感染力がある	解熱し機嫌が良く、全身状態が 良いこと	6か月~2歳児に多い

● その他

感染症名	おもな症状	感染しやすい期間	登園の目安	備考
伝染性膿痂しん(とびひ)	びらん・水疱形成 かゆみ	治療後24時間	皮しんが乾燥している	湿潤部位はガーゼで被覆し、他の児が接触 しないようにする。浸出液の多い時期には 出席を控える。治癒するまでにはプールを 禁止する。水遊び期間は登園届が必要
伝染性軟属腫(水いぼ)	半球状丘しんが数個から数十 個が集まっている	不明	掻きこわし傷から浸出液が 出ているときは被覆すること	水遊び期間中は、医師の意見及び、児童の 症状により活動を制限する
アタマジラミ症	小児では多くが無症状	産卵から最初の若虫が ふ化するまでの期間	駆除を開始していること	保育施設では伝播の機会が多い 家庭内でも同時に駆除することが重要
ヘルペス口内炎	歯肉口内炎歯肉が腫れ、 出血・口内痛が強い	水疱を形成している間	発熱がなく、よだれが止まり、普段 の食事ができること	遊具は個別にする